

大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第11回地域生活部会議事録

文責：平井（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第11回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和8年7月21日（火） 10:00～12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 集会室2			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	山根 聖子	小松代 菜央	朴 沙羅
	藍 さとみ	南雲 好晶	相澤 あゆみ	青山 明子
	平井 有希子	広瀬 健次郎	栈敷 洋子	金子 正
	区事務局：馬場 齋藤 中山 小西 鈴木（大石）			
(5) 内容・要旨	1. 議題 (1) 事務連絡 ・出欠確認。欠席者5名。 ・司会：伊藤部会長 書記：平井委員 ・9月の公開部会の事例の内容について確認。 ・講師の岸先生提出用事例は、個人情報でもあるため扱い方について岸先生と相談する。事例提供者の確認後、事務局に連絡。 (2) 自立支援協議会全体交流会に向けた準備 10/13（火）14～16 時開催。サポセン 5F 多目的室にて。今回の交流会では『伴走』をキーワードにして意見交換を行う。事前ワークとして、自分が思う伴走について意見だしを行った。発表。（下記参照） 『「伴走」というワードに、どのようなイメージを持っているか』 ・途切れない関係性。思いに理解を示していっしょに考える。 ・親亡き後に一番一緒にいてほしい人。住まい、健康面、心配は尽きないが、伴走者がいてくれたら大丈夫と思えるほどの頼りがいがある人。 ・ともに走るというわけではなく、現状や背景も理解して、ともに考えながらそばで見守る。手を出しすぎず、口を出しすぎず、どちらが支えているかわからないくらいの存在が理想。 ・伴走という言葉は聞いたことがなかった。マラソンの伴走者のイメージだけだった。 ・相手に寄り添って自立などのお手伝いをしてくれる人。チームで同じ方向に向かって進んでいくイメージ。 ・相手の行動に寄り添い、何をしたいか引き出し、困っていることに気づいて、次の人へ繋げていく。 ・それぞれの価値観を尊重する。意思決定をするための選択肢の提供。失敗を受け止める。安定を押し付けない。支援側の忍耐。 ・寄り添い、ひとつひとつ解決していく。決して無理強いをしない。背景をよく理解する。傾聴。信頼関係。 ・福祉を利用していなくても困難にはぶつかる。その困難から前進できる支援。環境を整え、地域生活の中でのあらゆる資源を使い、その人が自分で生きていくための生活を送れるよ			

	うにする。 ・視線とペースを合わせる。長期戦。繋がり続けることが大事。変化にも寄り添い続ける。 ・支える、サポートするというものではなくともに走る。 ・「伴走」という言葉は嫌い。走る、引っ張る、というのは本人の意思決定に反しているのではないか。「伴奏」のほうがイメージ合う。意思決定をスムーズにしていけるような伴奏のイメージ。 ・伴走自体、皆はあまり感じていないのではないか。 ・伴走という言葉を一般的にしているのか。あえて使う必要があるのか。 ・子どもたちと生活していること自体伴走ではないだろうか。 ・伴走ってつらいときもある。軽々しく使えないのではないか。 ・地域の中での生活者として考えた時に、家族の人たちにとっては伴走ってイメージがわからないのではないか。 部会長が委員から出た内容をまとめ、当日の発表も行う。 (3) 9月16日公開部会に向けた準備 ・9/16(水)14:00～16:30開催。13:30集合。机など準備から片付けまで行う。 ・現地は74名まで入るが、グループワークを考えて、定員30名(事務局を除いて)+オブザーバー参加。6人の席を5グループ作るイメージ。 ・内容は『セルフネグレクトについての簡単な基礎的説明、類型について、事例』で70分くらいの講義。30分くらいのグループワーク。発表10分。 ・終了後のアンケートは、紙での提出か二次元コードからの回答を予定している。 簡単な感想と、いくつかの質問(身の回りでセルフネグレクトに出会ったことがあるか、そのような方に関わることがあった場合、誰に相談しますか?等)をのせる。 ・タイトルは『セルフネグレクトの基礎知識～身の回りから考えるセルフネグレクト～』とする。 ・定員数は地域生活部会も含めた人数。部会は改めて申し込み不要。 ・名川先生が参加できる場合、先生とのやりとりの時間も作りたい。休憩も入れる。 次回 第12回地域生活部会(公開部会) 9月16日(水)14:00～16:30まで 大田文化の森 第3・4集会室 以上
--	--